

「職業科」（窯業）学習指導案

1. 日時 平成 27 年 9 月

2. 場所 窯業室

3. 学部・学年・組 高等部第 3 学年

4. 単元名 「型流しによる器製作」

5. 単元目標

- ・ 周囲とコミュニケーションをとりながら、協力して作業する態度を育てる。
- ・ 自信を持ってできる分担作業を増やすことができるようにする。

6. 児童生徒観 略

7. 教材観

生徒が周囲とコミュニケーションをとる経験を増やすため、分担作業の工程が含まれる本単元を設定した。集団で作業する中で自然と会話が生まれること、また、長期間同じ作業内容を繰り返し、技術の習得をさせることにより達成感を持たせ自信につなげることが本単元のねらいとなる。

鑄込み成形は、数段階の作業工程を経て完成に至ることからもわかるように、分担される作業内容が多様である。そのため、苦手な作業がいくつかあっても、すべての作業が難しくできないということになる可能性が少ない。自分が 1 人でできる作業を何度も担当し、技術を向上させ、仕事を任される経験を積ませたい。また鑄込み成形は、均質で高品質な製品をつくりやすいので、完成した製品を見て達成感を味わってほしい。生徒には、ことばと作業内容を関連づけ、イメージしやすいように「鑄込み成形」ではなく、「型流し」を単元名として用いるようにする。

8. 指導観

各作業において、教員への作業終了報告を行う時間を設定することで、コミュニケーションに課題のある生徒が発言する機会を増やし課題の克服へとつなげたい。また、自らが社会の一員として活躍する姿をイメージし、卒業後の進路に向けた意識の高まりが生まれればと考える。そのため、発言だけでなく、立ち位置や身振りなど、どのように行動すれば、よりよく相手に伝わるかについても指導する。

個々の生徒の実態や経験から、得意な作業、自信を持っている作業、挑戦したい作業が異なるため、繰り返し同じ作業内容に取り組み、様々な分担作業を経験させる中で、それらを見極め、個々の目標にあわせ配慮した役割分担をする。自信のある分担作業を 1 つでも多く持てるよう、各作業の手順を少なくし、やるべきことを明確にする。また製品の完成度を上げるために成形や検品の工程を設ける。最後の検品作業では、出来、不出来の見分け方を習得することで、生徒自らが検品を行い、作品を製品として出荷する判断を担わせる。

9. 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
① 周囲とコミュニケーションをとりながら作業しようとしている。	① 状況に応じて行動し、協力して作業できる。	① 同じ作業を繰り返し経験することで、正しい手順や道具の扱い方を身につけることができる。	① 作業の工程全体を理解している。

10. 単元の指導と評価の計画（全 20 時間）

次	時	学習内容	評価規準			
			関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
第一次	1	工程説明	①			
第二次	2～8	泥しょう・型流し・成形①	①		①	
第三次	9～16 本時	泥しょう・型流し・成形②		①		①
第四次	17	検品・やすりがけ			①	
	18	水洗い				①
第五次	19	撥水材塗り			①	
	20	釉薬がけ			①	

11. 本時の展開（13・14時）

(1) 本時の目標

- ・周囲の状況に応じて行動し、協力して作業できるようにする。
- ・作業の工程全体を理解できるようにする。

(2) 本時の評価規準

- ・周囲の状況に応じて行動し、協力して作業している。【思①】
- ・作業の工程全体を理解している。【知①】

(3) 本時で扱う教材・教具

ひしゃく、ざる、鋳込み型、メモ帳、ペン、バケツ、アイス棒、小皿、ナイフ、ろくろ台、粘土板、白布、スポンジ、洗面器、ぞうきん、ほうき、ちりとり、泥しょう、タイマー、時計、工程カード、報告カード、チェック表

(4) 児童生徒の実態と本時の目標 略

(5) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援のてだて等	評価規準
10分 導 入	○あいさつ・出欠確認 ○材料用具確認・準備 ・別のグループが製作した乾燥済みの器を型からはずす	・全員ができるように個数を調整する ・目標の個数を示しながら、連帯感、達成感を確認できるようなことばをかける	
45分 展 開	○工程確認・役割分担 ○前半作業 (ひしゃく、ざる、はこぶ、タイマー、整形) ○休憩 (10分間) ・休憩時間を利用して、乾燥させ、次の作業ができる段階になるまで待つ ・型流しの工程は休憩なしで続ける ○後半作業 (アイス棒、チェック、カット)	・分担作業の名称を尋ねながら、全体の工程を確認する ・前半と後半の区切りを明確に示す ★生徒の希望を聞くことを前提とするが、互いに協調して分担するように声をかける ・分担ごとに作業場所を明確に示す ・生徒が自主的に行動するように促す ★自主的に行動できていない生徒や不安そうな生徒には、手順や道具などをいっしょに確認する ・作業報告を徹底させる ★報告を受けたら、答えることを促す ・アイス棒作業のコツを教えあうようにはかる ・チェック係がアイス棒作業の出来を必ず確認するように指導する ★間違いを指摘するにとどまらないようにする ★できた者はどうすれば上手くできるかのコツなどを他の者に伝えるように促す ・作業が終わったら、順次片付けしていくように確実に声をかける	・作業の工程全体を理解している【知①】 ・周囲の状況に応じて行動し、協力して作業している【思①】
15分 ま と め	○片付け ○連絡帳記入 ○まとめ・あいさつ	・できるかぎり全員を片付けに参加させる ・片付けの成果を確認し自信につなげる ・個数を数えたりして成果を確認する	

★は、評価規準に関わる指導上の留意点、支援のてだて

(6) 教室配置等 略

*備考

◇当該教科・領域の年間指導計画 略